

○富田權佐景周傳

景周字大賚、俗稱縫殿、後改權佐。額照其號也。齋曰櫻寧齋。校書堂曰樂地堂又方竹庵。被眉曰暮松樓。本姓平氏。富田其家號也。蓋梶原氏之末葉也云。家祖治部左衛門景政於尾州荒子。始仕藩祖利家卿。此子重政起家。叙爵任下野守。後越後守。執政大夫之一人也。景周其九世孫。庶流主稅良鄰之長男。母奧村彈正忠順女。以延享三年丙寅某月日生於府下私第。年甫十七。寶曆十二年十二月。宗家治部左衛門景和養之爲嗣子。明和八年九月初調于殿中。安永二年九月養父景和歿。冬十二月襲家。賜遺領二千五百石。被加入持組。同九年三月爲小松城番。天明五年八月兼預地方。秋九月轉算用場奉行。翌六年八月有故除職。享和三年七月爲出銀奉行。文化二年二月嘗所編纂之越登加三州志三十三卷及陽廣公偉訓校本一卷。以關屋政良獻之藩公。翌三年十月依願出銀奉行除職。同九年冬以先是有幕府之台命。承特旨更再校越登加三州志。至是編成獻進之。藩公即進呈之幕府。冬十二月以人見氏賜恩官。且併賜禮服二具。白銀十枚。翌十年二月以越登加三州志於江戶聖堂學問所應公用之旨。

松平豆州傳命於江戶公用人。夏四月有其命。後再承內旨。更撰進一部。同十三年十二月以人見氏賜恩官。併賜道服并白銀五枚。文政元年十二月以七十三歲致仕。老名稱痴龍翁。以家祿之內五百石賜養老料。同六年十月應藩公之數。撰書竹澤殿之鐘銘。公手自賜服衣。此日也愛景晴朗以賦上。曰。僊苑新開天一方。壽松龍影映丹牆。黃金澤上冬輝暖。挾纒殊恩不識箱。翌七年七月金龍公薨。承特旨撰墓誌。同十一年二月廿日歿于金澤私第。享年八十三。廿七日葬于城東卯辰慈雲寺境內。嗣子景煥が三州志の跋に云ふ。家大人。自東裝篤志乎六經。傍及諸子。崇復古學。云々。中歲忽然以謂。如諸經子。西土東域古今數百家註之評之而無遺蘊。能事畢矣。世何咲我蛇足。不如錄有裨益我北方者而備國典稽古之一助焉。自是立筆此費。埋首故紙堆中。既可二十年。而聚成矣。云々。三州志來因概覽の自跋に云ふ。羊を逐ふ八千またたどくしく賤のうみ草のみだれがちなる北の國つふみのまことならぬは、やつがれの愚かなる身にさへなげかしと思ふものから、このはたとせまりまさふみの古言にかうがへ、解きわいだめて、越能賀

三州志てふものをつどり、家にかくしおけるを、過ぎし文化ふたつのとしのはる、はからずもおほけなきとの、きみのおほせごとありて、たいまつりしはいとおそりふかけれど、そのひとわたりも越路の雪のしほりとならむは、またほるの至りとやいふべき。みじかき筆を染めてふみのうちにかいつけ侍る。

年を経しかひも有磯の海ならば

ひろはむあまの見るめとも哉

ふき傳ふ聲もはづかし浪風に

夕波千鳥あとを残して

また吾妻より御音信ごとのありときよとて

色に香にあやなき窓の梅枝を

いかでか東風の吹きさそふらん

文化さるの冬 平の景周

按ずるに、吾が舊藩中國初以來文人學士に乏しき故にや、國誌地史の編纂ありといへども、國史諸記録に徴して往古の事蹟を搜索し、地名は勿論、事實の巨細を明了になしたるは、富田氏以來にて、實に舊藩中邦國の故實を後世へ示

したる鼻祖といふべし。

○富田景周慈母奥村氏傳

景周撰燕窩風雅に云ふ。余慈母奥村氏。名愛。號青楓。忠順之女也。幼有才。原元慶賞小道。七歲既自詠和歌。事鮮雨寶山碑文。以不復贅。及長從。亞相冷泉爲村卿門。屢賜褒詞。有家集青楓秋露三卷。其它所著書數部。藏于家。傍或嗜詩。往往出生語。乾莊岳初見。一唱三嘆。春晚云。殘影香闌月。起來梳鬢。紅梅花下夢。好被曉風驚。窓梅云。春筍彈了倚闌牀。欲睡未眠夜欲央。窓影月昇卜梅近。拔釵鐵紙引清香。餘詩率類之。蓋景周兄弟些有文辭者。全母氏庭訓之力也。と。また卯辰慈雲寺なる墳墓碑陰記に、先妣奥村氏。諱愛。號青楓。彈正君之嫡女也。彈正君曾夢花上掛名月。其妾有孕而生我先妣。幼而容儀端麗。所嬉戲非凡兒。以故彈正君愛育殊至。即其名呼愛。七歲既能屬和歌。時嫂氏贈所剪綵之花月一盆。而爲之題新題。先妣即把筆應之。

月花にいく春秋のながめかな

左右皆愕然。自是多秀歌。兼亦知文章書。所著有書數編。